



斜面に設置されたヒマワリの巨大な絵

巨大ヒマワリ まち元気に

西仙北中 生徒制作、作品お目見え

大仙市刈和野の西仙北中学校（千葉雅一校長）に、パネ添えたデザイン。全校生徒173人が9日、約3時間かけてヒマワリを描いた巨大作品

「世界一のひまわり（自称）」がお目見えした。地域住民らに元気を届けようと、国道13号から望める斜面に設置した。

パネル1枚の大きさは縦60センチ、横90センチで、作品全体では縦6段、横27段。大小7個のヒマワリの絵に、校章と「地

10日には全校生徒が設置作業を行った。職員が見守る中、生徒たちは急な斜面で足を踏ん張りながら、力強く針金を巻き付けて枠にパネルを固定していた。

生徒会長の3年小山田一成さん（14）は「色塗りにから設置までを終えて、達成感がある。



針金でパネルを固定する生徒

地域の人を笑顔にできる立派なヒマワリを咲かせることができたと思う」と話した。

同校は、2012年に西仙北東中と西仙北西中が統合して誕生。ヒマワリの絵の制作は、西仙北東中時代の1999年から毎年行っている。

担当の美術教師は「多数の花が集合して形作られているヒマワリは、学校生活に似ている。作業を通じて、協力することの大切さを感じてほしい」としている。

（田村鳩子）